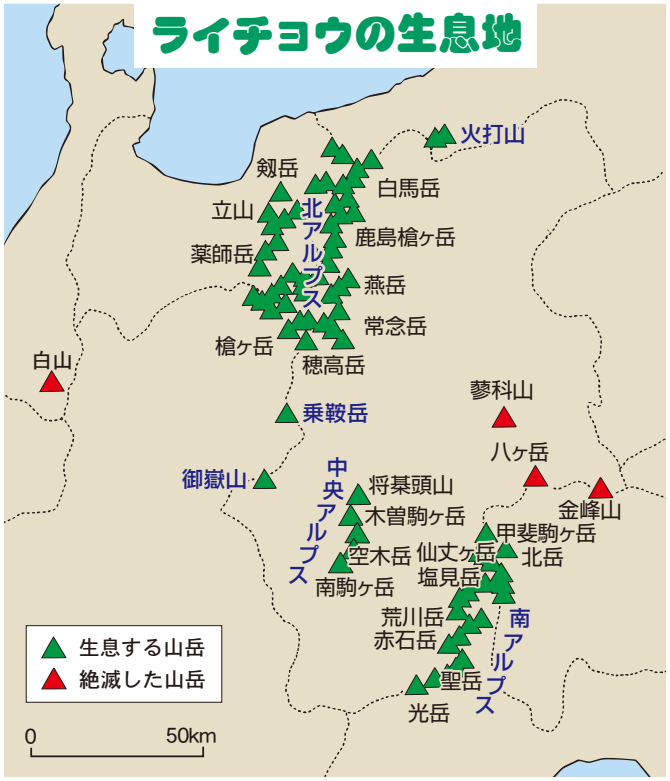
ライチョウの生息地



「中村2006年」を改編

ライチョウの食べもの

コケモモ

ガンコウラン

シラタマノキ

アオノツガザクラ

ライチョウは草食性の鳥で、高山植物の葉や実を食べ、時には昆虫もついばみます。コケモモやガンコウランといった植物の実は、秋に食べます。

きびしい環境に生きる鳥たち

・高山帯は平地に比べ風が強く、冬の積雪も多いため、里の低い山々とは違う景観です。背の高い樹木は、ほとんど見られません。
・その代わり、地面をはうように生えているハイマツや、夏には高山植物のお花畑が現れます。
・花こう岩でできた中央アルプスは、大きな岩や、それらがこわれてできた砂地があります。でも、そのような厳しい環境で鳥たちは、子育てをしているのです。
・亜高山帯で子育てが終わったホシガラスは、ハイマツの実を求めにやって来ます。その食べ残された種子は、ハイマツの分布拡大に役立っています。

ハイマツの球果　　ホシガラス※

食べ残されたハイマツの種子
登山道の近くでは、ホシガラスがハイマツの実を運んできて食べた跡を見ることができます。

中央アルプス国定公園
CHUO ALPS QUASI-NATIONAL PARK

発行元・問い合わせ先／駒ヶ根市商工観光課
監修／中央アルプス駒ヶ岳(千畳敷カール)保存管理委員会
TEL.0265-96-7724　FAX.0265-83-1278
https://www.city.komagane.nagano.jp/

発行年:2025年

無断転載および複製等の行為を禁ず

鳥の観察は、登山道内で静かに観察してください。

長野県天然記念物
中央アルプス駒ヶ岳

中央アルプスの鳥

イワヒバリ

復活したライチョウ

- ライチョウは、約2万年前の氷期の終わり頃から高山帯に移り住んできた鳥です。
- かつて、中央アルプスの稜線部を中心にライチョウは普通に見ることができました。 しかし1970年代になると、だんだんその姿を見ることができなくなり「中央アルプスではライチョウは絶滅した」と考えられていました。
- ところが2015年に1羽の雌のライチョウが、木曽駒ヶ岳に飛来してきたのです。これをきっかけに環境省は、2020年から保護増殖活動を行ってきました。その結果、中岳周辺で保護したライチョウたちを中心に、将棊頭山～南駒ヶ岳まで分布を拡大しました。

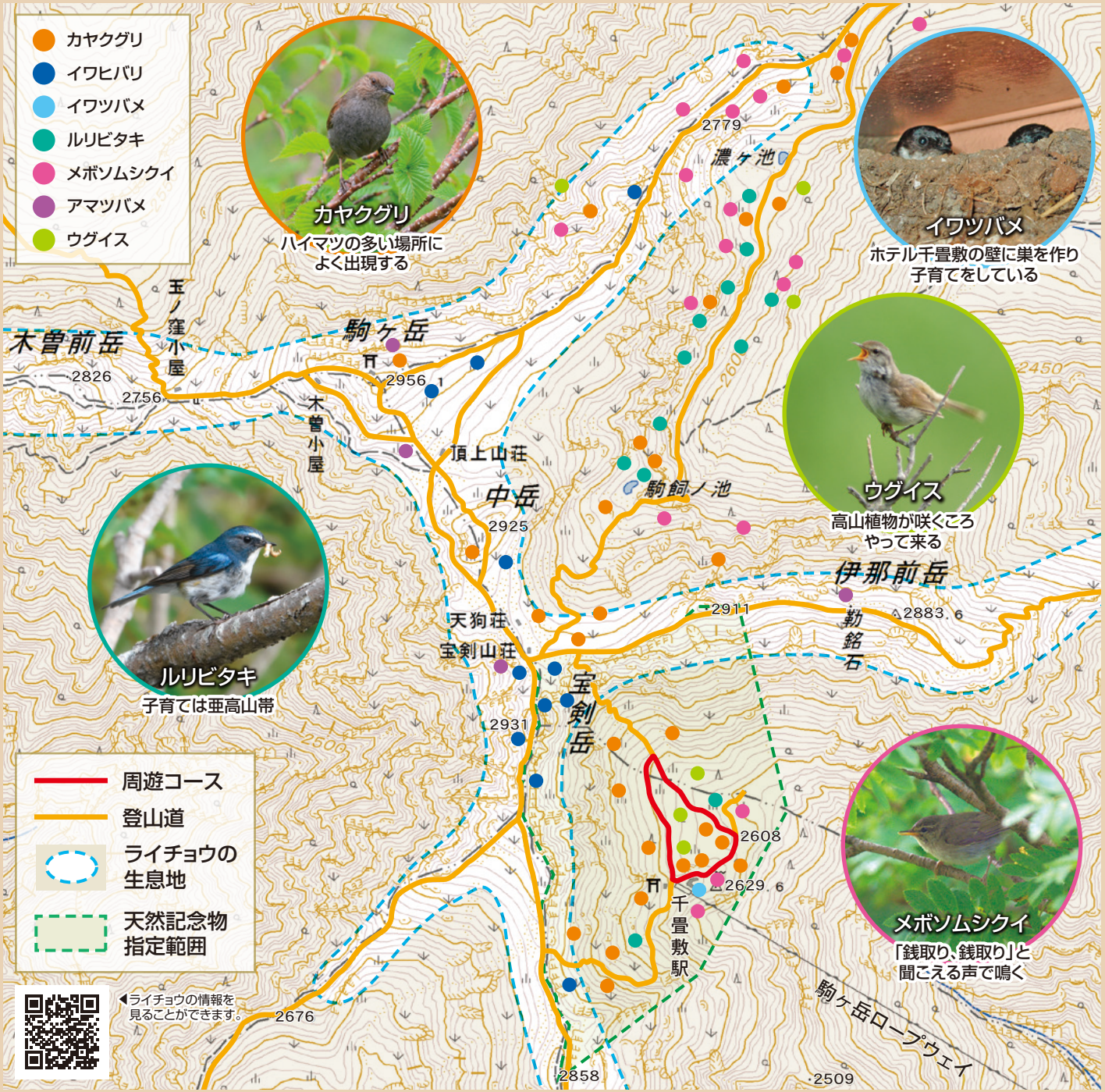
母親と行動を共にするヒナ

冬季の雄 ※

繁殖期の雄

※写真提供：北村　忍

登山道で見ることができる鳥



国土地理院発行2.5万分の1地形図を編集して作成 「上伊那の自然 2018」を改編